



【JA福井県産大豆の復活とさらなる飛躍を目指して】

7月20日、大豆部会委員による圃場巡回(生育調査)を実施しました。大豆の生育状況は、播種後に降雨も少なく培土作業や除草剤防除につきましても、順調に作業ができ、生育は概ね良好でした。梅雨が明け、暑さが一気にやってきました。今後、7月下旬には開花期を迎え、大豆の収量・品質の向上を図る重要な時期となります。大豆の肥培管理については早め早めの対応をおこないましょう。

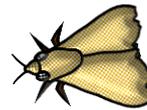
大豆部会委員調査内容(調査日:7月20日)

栽培区分	年度	調査日	苗立ち本数	草丈	葉令	目標苗立ち本数	苗立ち率
			(㎡)	(cm)	(葉)		
普通培土	R3	7月20日	16.9	43.0	6.8	16	105.5%
	R2	7月20日	13.7	42.4	6.7		85.8%
狭畦密植	R3	7月20日	34.8	56.0	7.4	23	151.3%
	R2	7月20日	17.7	33.0	6.4		76.8%



ウコンノメイガ発生状況

調査方法:7月下旬に圃場内5か所で連続して10本(合計50本)を調査  
⇒葉巻数が65個以上で要防除



葉巻数と減収の関係:7月下旬~8月上旬の葉巻数が茎あたり1.3個以上だと5%以上減収する可能性がありますので防除をしましょう。

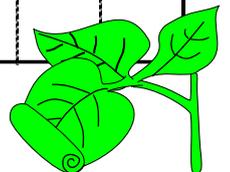
2. 里のほほえみ、高収量・高品質へのポイント

7月の大豆作業は、培土・除草剤散布・防除などがあります。また、今年は、7月上旬に雨の日が多く作業が中断していたため、今後、7月下旬にかけて作業が集中します。作業計画を立て遅れないようにしましょう。

1. 病害虫防除は適期に確実に!!

【防除暦】

生育ステージ	7月			8月			9月			10月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
防除	生育盛期			開花期			子実肥大期			成熟期		
基幹防除	1回目 殺虫剤(ウコンノメイガ)			2回目 殺菌殺虫剤(紫斑病+カラムシ類・アブラムシ類)			3回目 殺虫剤(カラムシ類・マメシクイガ)					
	同時防除+			開花開始期 殺菌剤(葉焼病)								



①ウコンノメイガ(葉巻き)防除 : 7月末~8月上旬

- 管内でウコンノメイガ(若齢幼虫)による葉巻きや成虫(蛾)の発生が見られ始めました。
- 特に、里のほほえみは葉色が濃いため、発生量が多くなる傾向があります。防除時期は、7月末~8月上旬!!
- 防除薬剤 : ダントツ粉剤 使用量:4kg/10a 使用回数:3回(収穫7日前まで)
- プレバソンフロアブル5 使用量:4,000倍 100~300ℓ/10a. 使用回数:2回(収穫7日前まで)

2. 雑草に負けない圃場管理!!

例年、この時期は大豆の生育で圃場が被覆され雑草の発生は少なくなります。今年は、多雨・日照不足の影響で、豆の生育不足や遅れが見られ、後発の雑草に注意が必要です。

3. 大豆作見会(現地研修会)の開催について

- 開催日時 : 令和3年8月4日(水) 10時00分~
- 集合場所 : 福井西部支店
- 開催場所 : 西部管内⇒北部管内